

第4回 府中市桜通り等改修事業検討協議会議事録

1 日時 平成25年6月26日(水)午後2時00分から午後4時00分

2 場所 市役所北庁舎3階第3会議室

3 出席者

(1) 桜通り等改修事業検討協議会委員

神庭正則	出席
福嶋司	出席
伊藤敏春	出席
長谷川光男	出席
藤澤光男	欠席

過半数の出席により会議は有効に成立

(2) 事務局出席者

平石都市整備部次長

土木課 金杉課長補佐

管理課 高野課長補佐

土木課 遠藤主査

” 直井主査

” 鈴木技術職員

” 佐藤技術職員

” 瀬野事務職員

(3) 傍聴者

1名

4 進行

(1) 前回までの整備方針の確認について

(2) 改修工事の整備方針について

(3) 今後のスケジュール(案)について

(4) その他

5 資料

第4回府中市桜通り等改修事業検討協議会

6 会議内容（協議結果）

(1) 次第1 前回会議の確認について

ソメイヨシノは街路樹として使用することは悪いわけではないが、使用するのであれば、特性や場所等を考慮しなければならない。

(2) 次第2 改修工事の整備方針について

【協議会の意見】

(事務局) 前回までの本協議会で、バリアフリー化と維持・管理上のことを考慮し、街路樹の樹種を小彼岸、越の彼岸、仙台屋等を候補としているが、未来の桜通りを考えた際に、ソメイヨシノは街路樹としてどうなのか、再度意見をいただきたい。

樹木の大きさについて、すぐに桜が咲くようなものを植えるべきか、または、経費のことを考え、苗木の方が良いのか。

(会長) 植樹する場合には、どのくらいの大きさのものを植樹すればよいかを考えなければならない。樹種によって値段のバラつきはあるのか。

(事務局) 大きくバラつきは無いが、ソメイヨシノと提案されている越の彼岸とはそれほど値段に差はない。しかし、大きさによっては差が出てくる。1年経過すれば、3,000～5,000円程度変わってくる。また、苗木の値段以上に移植や木のサイズによる工事費が変わるので、その影響が大きくなると思われる。

(会長) どのくらいのものが良いか。すぐに咲かなくても、次の年に咲くぐらいのものが良いのではないか。

(委員) 他の植物であれば、3～4メートルが一般的ではないか。

(副会長) ある程度高さが無いと光が当たらないため、8～10メートルくらいが良いのではないか。

もう一つの問題として、樹形がある。あまり小さい木を植えると、成長によっては道路や歩道に支障が出てくるため、ある程度樹形が固まった状態のものを植えた方が影響が少ない。

それらのことを考慮すると、5メートル位が適正ではないかと思う。

(会長) 5メートル位のものを植樹した場合、どのくらい費用がかかるのか。

(事務局) 越の彼岸であると、4メートルで約27,000円かかる。これより高さのあるものとなると、5,000～10,000円くらい上積みされる。成長するため、維持管理の費用も年々増加する。

(委員) 樹形が大きくなれば根の株も大きくなるが、現状の歩道幅員でも可能なのか。

- (副会長) 今の歩道幅員であると難しいと思われる。
- (委員) 根鉢はどのくらいの大きさになるか。
- (事務局) 樹高5メートル位であると、30センチメートル位になるとと思われる。
また、根の長さは50～70センチメートル位になる。
事前に準備をして根回しを何年か掛けてやれば小さくすることは可能であるが、品物が揃わなくなってしまう。
- (会長) これらの事を考慮すると、根鉢は1メートル位がベストであるが、それよりも小さいかもしれない。希望としては、樹高が5メートル位で、ある程度樹形が固まったものが良い。
剪定の問題はどうなのか。
- (副会長) 問題の枝がなければ剪定の必要はない。
- (会長) 市としてどのくらいの予算を考えているのか。また、どのくらいの期間で整備する方針なのか。
また、前回の協議会で土の中の性質を変えるという新しい工法の話があったが、その工法であるとかかなりの工事費がかかると思うが、本当にできるのか。
- (事務局) 工事を行う場合、歩道部の舗装の取り壊し、樹木の伐採・伐根、植栽、客土の入れ替え等を行う必要がある。客土の入れ替えについては、菌が侵している場合は土を入れ替えるのか、若しくは開発された材料を使用する等の土壌改良を行う必要がある。これに加え、縁石・側溝・照明灯・ガードパイプ・舗装なども行う必要があり、インターロッキング舗装にするのか、または、アスファルト舗装にするのかで変わってくる。また、ガラ処分などの処分費も発生する。以上が歩道部になり、これ以外に車道の築造工事も必要となる。これらを全て行うと、かなり高額な工事費が予想されるため、工事費を抑えるためどのように整備していけば良いか、意見を聞きたい。
- (会長) 土壌を入れ替えるというのは可能なのか。
- (副会長) 土壌性の病気であると土壌を入れ替える必要があるが、それ以外の場合には現状土にプラスすることで土壌改良としては十分である。
- (会長) 弱った木はみんなキノコがついているので、その菌を残して植えてしまうと、根から入り菌が繁殖してしまう。
- (副会長) 新しい土に入れ替えることで、高価な材料を使用しなくても十分である。問題がある木に関しては、完全に入れ替えるという形の方が良い。
- (会長) キノコが多くついている木については、考えなければならない。また、前回の会議で報告のあった新しい工法と客土による土壌改良とは相当違うものなのか。
- (事務局) 前回の会議で報告した根上りのしにくい工法については、かなり高額な工事費となる。歩道部の桜の植え替えと改良だけで約5億円かかってしま

う。さらに、車道部のバリアフリー改良を行うとなると、それも約5億円かかり、全体で約10億円かかってしまう。

(会 長) 5億円を何年間で整備する予定なのか。

(事務局) まだ何年間で整備するというのは決まっていないが、10年間に設定したとしても1年間で1億円という形となるが、今の財政状況から考えると厳しい。

(会 長) 10年間で整備すると1億円かかり、30年間で整備すると、3000万円となる。30年間は長過ぎると思う。

(委 員) 先ほどキノコの話があったが、全部の木について診断しているのか。

(事務局) 全ての木を診断している。

(会 長) バリアフリー化と並行して進めていかなければならない。バリアフリー化をするために、歩道を後退するなどして改良しなければならない。

(委 員) 何年間で整備を行っていくかある程度ははっきりしなければならない。それにより、最初にどこから取りかかるかを考えなければならない。

(会 長) 公共用地の部分については、整備の方針が出ているが、それ以外の部分はどうするのか。仮に10年間で整備するとなると、1年間で1億円かかるが、この経費をいかに安くし効率を良くするかが求められる。

(事務局) 前回の本協議会で、工事は傷んでいる木がある場所からという意見をいただいたが、基本的には傷んでいる木をまず植え替えていかなければならないと考えている。

(会 長) 植え替える箇所については、バリアフリー化も行うということによいか。

(事務局) まずは、植え替えにより、歩道有効幅員が確保できることから、歩道が広くなるということに関して、バリアフリー化になると考えている。

(会 長) それは一時的なものである。

(委 員) どのようなことをバリアフリー化と考えているのか。例えば、歩道と道路を一体的に平らにするのか。

(事務局) まず、2メートルの歩道の有効幅員を確保することである。ところどころ1.5メートルになってしまうのはやむを得ない。また、車道と歩道の高さをなるべく段差を無くし、勾配をゆるやかにするなどのセミフラット化がバリアフリー化の主なものである。

(委 員) これらの工事を行うと、今の予算では収まらないということか。

(会 長) 何とか並列して整備できないのか。

(事務局) 工事費を抑えながらバリアフリー化を行えるのが一番良いが、これらの整備を行うと工事費が上がってしまうため、短期・中期・長期を決めて20年を目途に整備を進めていきたい。この期間で整備すると工事費が総額10億円となり、年間5,000万円程度かかってしまうため、今後市の内部で調整をしなければならない。

部分的に整備するよりもスパンごとで整備した方が良いが、その際にはどの区間を、どのように整備していけば良いかという問題がある。

また、菌の除去の方法はどのようなものがあるのか。

(委員) 樹木につくキノコの種類は大きく分けて3種類あり、幹につくもの、根株・根元から入ってくるもの、空気中をさまよって幹に付着するものがある。種類により対策が異なってくる。

(副会長) 土壌殺菌剤により消毒する方法がある。大量に使用できるかは問題がある。

(会長) 中途半端な事を行うよりも、完全に植え替えた方が環境に優しく、不安が残らない。菌の問題が無いところには土を補充すればよいが、確証がないとすれば難しい。

(副会長) 問題のある土壌を取り上げたとしても、その周りが同じような状態であると同様に菌が繁殖する。

(事務局) 改良を行うか、若しくは入れ替えを行うのかで工事費にかなり影響する。また、この道路はかなり車の交通量が多いので、片側通行で工事を行うのか、どの程度の規模で改良を行うのかにより、工事費が変わってきてしまう。そのことについて意見を伺いたい。

(会長) 少なくとも菌によって傷んだ木については土壌の入れ替えが必要である。短期・中期・長期の短期では、弱っている危険な木を対応するということであるが、長期とはどのくらいの期間を考えているのか。

(事務局) 20年程度かかるのではないかと考えている。中期をどうするのかはイメージができないが、20年間の間にはやりたいと考えている。このことについては、まだ内部調整を行っている段階であるが、財政状況を見ると10年間で整備するという方針にはならないと思われる。

(会長) 桜の植え替えだけでなく、バリアフリー化も極力早く行う必要がある。公共施設の道路後退については予算上、土地の問題から考えると対応が可能ではないか。

(事務局) 公共施設の対応を中期とするのであれば、短期は枯損木になりかけている危険樹木の対応、中期は公共施設の後退及び樹木の植え替え等の対応、長期は少し長い時間をかけて整備するということを考えている。

(会長) 短期については、危険木について早急に対応しなければならないことである。中期については、公共施設の後退及びその部分の樹木の植え替え、バリアフリー化を行う。長期に関しては、20年を一つの目標として整備を完了させる。

インターロッキング舗装について、市としてはどのように考えているのか。

(事務局) 現況はインターロッキングで整備されているが、インターロッキングで整備すると工事費・材料費がかなりかかってしまうので、アスファルト舗

装で整備した方が4分の1くらいコストを抑えることができる。

インターロッキングは見栄えが良いが、型が決まっているので、根上りが発生した際に修正するのが難しい。アスファルトは反塑性体であるため、状況に合わせて整備することが可能であり、容易に手に入れることができるため、維持・管理しやすい。

(会 長) アスファルトは透水性効果もあるのか。

(事務局) 長年経過すると目詰まりを起こすが、透水性の効果はかなりある。

(委 員) 5～10年の間に古木を伐採したあとはどうするのか。

(事務局) 基本的には植え替えていく方針である。

(会 長) 短期の方針については、危険木を植え替えるということであるが、そこに何を植えるのかということについては議論が十分ではない。ソメイヨシノに再度植え替えても良いのではないかという意見が出ている。現状とあまり違和感のない姿にしなければならないため、植え替える空間は何を主体にするかを考えなければならない。

(委 員) 伐採した箇所に植樹するところから関係してくるため、差し迫った話である。

(会 長) どの場所をどのように整備するのかを今後議論していかなければならない。すぐに整備が出来そうなものは植え替え、土壌は使用できるものは使用し、問題のある部分は入れ替える。場合により、殺菌剤の使用も必要となるかもしれない。

舗装については、アスファルト舗装にした方が良いということである。

(事務局) 前回の本協議会で話のあった土壌改良の工法の他に根上りを防止する工法があるならば教えていただきたい。

(副会長) 骨材を使用した根が太くならない工法がある。実験的にソメイヨシノ等で行っている場所はあるが、莫大な金額がかかる。あとは、少し深めに植え、根を下の方に伸びるように、通気性を良くし、下の方の土を固めない方法がある。この方法は、人が乗ってしまい踏み固められて弱ってしまう恐れがあるため、そこに注意すれば根上りの防止にはなるのではないか。

(事務局) 骨材を使用する工法というのは、費用は高くなるが利用しようと思えばできないわけではない。

また、深植えという話があったが、桜の根の部分に酸素が供給できるような工夫をすれば問題ないが、方法を間違えると桜が成長できなくなる。そのため、費用をかけない方法をとるのであれば、根が伸びるスペースを確保してあげなければならない。根が窮屈になると根上りを起こすので、初めからスペースを確保してあげれば根はそこに向かい伸びる。枝も剪定してあげることにより、根の成長を抑えることができるので、根上り防止につながるのではないか。さらに、バリアフリー化も行うとなると、2メートルの歩道幅員を確保しなければならず、スペース自体を確保できない

ということが懸念される。

(会 長) いい環境にしてあげれば根は伸び、大きくなる。周囲を囲ってしまう方法で、透水はするが根を伸ばさないというものはないのか。

(事務局) 根の上に砂利のような水の通るものを敷き、その上に砂やグレーチングを置くことは可能なのか。

(副会長) グレーチングができれば非常に良いと思う。

(会 長) 入り込み易いということは、水が下に溜まりやすくなる。結局工事費が問題となってくるが、それは市内部で検討して欲しい。私たちが議論をしなければならぬのは、バリアフリー化を行いながら桜通りが今の姿のまま、桜祭りが楽しめるためにはどうすれば良いかということである。

これまで本協議会で数回議論をしているが、結論や整備の順番等をあと2回でまとめていかなければならない。今回の本協議会では、短期・中期・長期の整備方針に関して話を進めることができた。工事費に関しては、市の内部で調整してもらえないか。

(事務局) ソメイヨシノを植樹することについて、もう一度意見を伺いたい。

(会 長) ソメイヨシノを否定しているわけではないが、全部を植樹することは止めようということになっている。

(事務局) 現在、ソメイヨシノはトンネル状の空間になっているが、これらを小彼岸や越の彼岸等の候補に植え替えるという議論になっているが、ある程度今と同じ空間でないと良くないのではないか。あまり小さくしすぎても問題がある。

(会 長) 今回ソメイヨシノの代わりに植えようとしているものが、今までソメイヨシノが醸し出していた雰囲気とは違う雰囲気を醸し出す事が心配である。ソメイヨシノがこれだけ問題となっていることから替えていこうというのが一番最初からこれまでの議論である。

例えば、公共施設であれば道路後退が可能であるので、その部分においてはソメイヨシノが成長しても構わない。しかし、歩道の有効幅員が1.5メートル程度であるにも関わらず、そこにソメイヨシノを植えるのは枝張り等を考慮すると難しいということから、別のものを植え替えるという議論になっている。そのため、場所を限定して制御しなければ良いのではないか。

(委 員) 中央文化センターに市民が集まるので、市民球場等の他の公共施設も整備し、平均的に市民が集まるようにして欲しい。

また、市民にいつ頃周知するのか教えていただきたい。

(事務局) 予定では、7月中には庁内検討会を開催し、工事計画を定め整備方針を固めていきたいと考えている。その後、周知について検討する。

(会 長) 本日の協議会のまとめは次のとおりである。

- ・ 植樹する木の大きさをどうするか。樹高が5メートル位のある程度樹

形が固まったもので、剪定をあまり行わなくてもよいものが良い。

- ・ 客土をどうするか。菌の状況を加味し、影響を受けていなければ、土壌を補充し、再度利用することが可能である。影響を受けていれば、全面的に入れ替える必要がある。状況によっては、殺菌効果のある薬剤を使用することも考えられる。
- ・ 整備スケジュールについては、短期の整備方針について、危険木を植え替える等、緊急に対応しなければならないことである。中期の整備方針について、公共施設に関しては道路後退を行いながらバリアフリー化を進める方向で検討する。また、人の流れを意識して進める。後期の整備方針について、全体の完成を20年間を目安に行う。
- ・ 舗装等については、インターロッキング舗装で議論していたが、費用、維持・管理面について考慮すると、透水性のアスファルトで舗装した方が進めやすいのではないか。
- ・ 伐採した木については、早急に植え替える。
- ・ 根上り防止の工法については、今後議論する。
- ・ 住民への周知の方法については、庁内の検討会後に検討する。

(3) 次第3 今後のスケジュール（案）について

【協議会の意見】

（会 長） 第5回、第6回の本協議会の開催予定が2ヶ月連続であるが、間に合うのか。

（事務局） 今後のスケジュールを考慮すると、この時期に開催しなければならない。今後の内部の検討会の進捗状況によっては、日程を見直す可能性もある。

（会 長） 改修計画が実現できるようにして欲しい。

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証するため、ここに署名する。

会 長 福嶋 司 

委 員 (神庭委員) 神庭 正則 



12

13

14



15

16

17

18

19